

「生物多様性を学び、国際協力についての、自分なりのミッションを探る！」

## 平成22年度地球環境基金「国際協力講座」【報告】

### 研修の主旨

今回の講座は国際環境協力活動に興味のある方を対象に現役で活動する多数の講師を招き、「国際環境協力」とはなにかについて ODA の立場、地域行政の立場、ソーシャルビジネスの立場、草の根活動の立場から講義いただき、また国際協力活動の1つの最前線である国連会議の現場での体験を通して国際環境協力に対するイメージを明確にし、自分にもできる国際環境協力とはなにかを考え、多くの参加者が実際に行動を起すきっかけとなることを目的とし社団法人 海外環境協力センターの企画運営によって実施されました。また講座の企画運営にあたっては環境NGO ラムサールセンターにご協力いただきました。

### プログラムの概要

開催日：平成22年10月24日（日）10:00～10月25日（月）15:30

場所：愛知県名古屋市内 金山プラザホテル及び名古屋国際会議場

参加者：全国より NGO・NPO の関係者から学生までの29名

講師：鈴木 陽子氏（矢作川をきれいにする会会長）

松葉 清貴氏（愛知県環境部水地盤環境課長）

Ms. Ana Maria E. Tolentino (ASEAN Center for Biodiversity; Program Development Officer)

中村 さやか氏（独立行政法人国際協力機構企画部業務企画第1課調査役）

山崎 勝子氏（株式会社テクノ中部 環境技術本部環境調査部課長）

白木 夏子氏（株式会社 HASUNA 代表取締役）

中村 玲子氏（ラムサールセンター事務局長）

長谷 代子氏（社団法人海外環境協力センター研究員）

ファシリテーター：西宮 康二氏（社団法人海外環境協力センター業務部長）

### 実施概要

#### 【1日目 於：金山プラザホテル】

初日午前のプログラムでは NGO・NPO とその活動について矢作川流域での河川保護活動に40年以上に亘って取り組んでいる「矢作川をきれいにする会」代表の鈴木氏にお話いただきました。環境問題より経済成長が最優先という時代に地域の漁業者の生活を守るために立ち上がった婦人会の企業・行政を相手にした提言活動とその後の協働関係までの変遷は環境保全活動の草創期から現在までの姿を知る上でとても勉強になりました。また国際的な枠組み作りではなく、地域住民が生活を守るために起こした活動でしたので NGO・NPO 活動について詳しくない参加者にとっても民間の環境保全活動とはどういったものかわかりやすい講義でした。

続いて生物多様性条約第10回締約国会議の開催地である愛知県環境部水地盤環境課長 松葉氏より、生物多様性条約についてまた国際連合条約会議とはどういったものであるのか複雑な内容をわかりやすくご説明いただきました。また、条約会議開催準備に携わった行政官として締約国会議の舞台裏など興味深いお話を伺うことができました。

午後のプログラムは CBD COP10への出席のためフィリピンから来日していた ASEAN 生物多様性センターのアナさんから当センターのご説明と ASEAN 域内での環境保全活動の現状、仕組みなどをご説明いただき、国内からは JICA の中村調査役、中部テクノ山崎氏、ラムサールセンター中村氏、OECC 長谷氏に講義いただきました。国連機関でのインターンシップなど豊富な国際協力活動のご経験からソーシャルビジネスとして株式会社 HASUNA というエシカル・ジュエリーブランドを立ち上げられた白木氏からはこれまでのご苦労から様々な体験談までお話いただき、興味深い講義となりました。

夕食後は、国際協力活動計画作りを兼ねてフリーディスカッションを行い、深夜まで参加者からさまざまな意見交換がされ、最終的に A4 用紙 8 ページに渡る「アクションプラン」を完成させることができました。

#### 【2日目 於：名古屋国際会議場】

我が国が生物多様性条約第 10 回締約国会議のホスト国を担う貴重な機会を捉え、当講座では「生物多様性条約第 10 回締約国会議」において国際協力の現場を体験していただくフィールドスタディーを実施しました。参加者全員が本会議の様子を観察し、またサイドイベントとして開催されている各種セミナーやワークショップに参加しました。国連会議への参加は初めてという方ばかりでしたが、国連会議とはどういったものであるのか、また「名古屋議定書」などの合意形成に世界中が注目している場の緊張感や高揚感などをしっかりと「見て・感じて」いただけたと考えています。



講義の様子



名古屋国際会議場内にて



ワーキンググループ



CEPA Fair